

広域特別支援連携協議会ニュース

# ひろがるネット

第11号 平成24年3月発行

出雲教育事務所管内  
広域特別支援連携協議会事務局

島根県教育庁出雲教育事務所内  
〒693-8511 出雲市大津町1139  
電話0853-30-5682 FAX30-5686

平成23年度特別支援教育総合推進事業

## ◎第2回広域特別支援連携協議会開催

平成24年2月28日(火)午後 出雲合同庁舎

### 特別支援教育の理解・啓発を

所長 足立隆志

特別な支援が必要な幼児・児童生徒については、早期発見と早期からの支援が必要です。しかし、適切な支援を当然のこととして受けることのできない様々な要因が存在しています。その大きなものとして「特別支援教育」についての理解が不足していることが考えられます。

理解・啓発の対象は、支援を必要とする幼児・児童生徒自身であったり、その保護者や家族であったり、学校の友だちであったり、指導にかかわる教職員や関係者であったり、地域の人々であったりと実に多様ですが、一人一人の子どもが自分らしく安心して生きることのできる世界を実現するためには、すべての人が特別支援教育について正しく理解することが必要です。そのためは、

- 理解・啓発の対象を明確に設定すること
  - 対象に応じた内容や啓発方法を工夫すること
  - 継続的、体系的な理解・啓発の計画をもつことで、すべての人に働きかけていくこと
- などが求められます。

特別支援教育にかかわるすべての関係機関が、それぞれの立場で理解・啓発を進めていくことが必要ですが、その中でも特に学校の役割は大きいと考えています。広報や授業公開日の活用、PTA活動との連携など積極的な取組を期待します。

第1回広域特別支援連携協議会では、特に①理解・啓発、②支援員の活用、③異校種間の連携が話題となりました。

今回の協議会では、特に「理解・啓発」について熱心な協議をいただきました。協議の概要を内面に掲載していますのでご覧ください。

さて、本県の特別支援教育推進の基本計画となる「しまね特別支援教育推進プラン」が策定され、間もなく公開となります。

プランによると、特別支援学校のセンター的機能の充実にあわせ、小・中学校及び高等学校においては、各地域において拠点校を選定し、特別支援学校からの重点的な助言又は指導を行うことで、特別支援教育の実践力の向上を図ることとしています。また、その成果を拠点校から地域内の他の学校へと拡げ、地域全体の特別支援教育の底上げに取り組むとしています。

出雲教育事務所では、今年度、出雲養護学校と雲南市立木次中学校を指定して「特別支援学校と中学校特別支援学級との連携推進」を実施してきました。これは、「しまね特別支援教育推進プラン」を先進的に取り組んだ実践であり、この成果を発信していくことにより本県の特別支援教育の理解・啓発にも貢献できると考えています。

新年度からいよいよ「しまね特別支援教育推進プラン」が動き出します。特別な支援を必要とする子ども達一人一人が、自立と主体的な社会参加ができるよう、関係機関それぞれにおいて理解・啓発のさらなる取組をお願いしたいと思います。



## 特別支援教育情報コーナー

才能を見いだすよい機会になるかもしれませんね。

### 平成24年度障害者雇用支援月間ポスター原画募集（絵画、写真）

- 趣旨  
平成24年度障害者雇用支援月間（9月1日～30日）における啓発活動の一環として、障害のある児童・生徒の皆さんを中心に広く原画を募集し、その中から選考した優秀な作品をもとにポスターを作成して、全国のハローワークや主要駅等に掲示することにより、事業主をはじめ広く国民の皆様へ障害者雇用に対する理解と認識を深めていただき、障害者雇用の促進を図ることを目的とします。
- 主催 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
- 募集期間 平成24年4月2日～平成24年6月20日
- 詳細は、<http://www.jeed.or.jp> をご覧ください。

### 平成24年度全日本特別支援教育連盟地区別大会

#### 第51回全国大会（北海道大会）（道特連・北特研合同開催）

期 日 平成24年9月20日(木)～21日(金)  
 開催地 札幌市  
 大会主題 地域に交わり、生活を楽しみ、働く子どもを目指して～子どもたちの社会自立につながる特別支援教育とは～

その他については、<http://homepage3.nifty.com/zentokuren/> をご覧ください。

#### 中国四国地区

期 日 平成24年8月2日(木)～3日(金)  
 開催地 岡山県 倉敷市  
 大会主題 「地域で豊かに生きるための特別支援教育」～育ちを支え合う“つながり”を大切に～  
 講演 「自己への信頼感をはぐくむ支援」～発達障がいに係る精神科医の立場から～  
 つばさ発達クリニック 院長 藤岡 宏 氏

「自閉症の児童生徒への指導と支援」分科会で奥出雲町から発表があります。

### 第53回島根県教育研究大会（出雲大会）

期 日 平成24年10月26日(金)  
 会 場 塩冶小学校、朝山小学校、乙立小学校、稗原小学校、出雲市立第二中学校、南中学校

特別支援学級の授業公開が、塩冶小学校であります。

### 第45回全国情緒障害教育研究協議会島根大会

期 日 平成24年8月2日(木)～3日(金)  
 会 場 島根県民会館  
 大会主題 一人一人の自立につなげる支援の充実を目指して  
 — 実態のとらえ方と指導・支援、連携のあり方を探る —

「LD・ADHD等の子どもに対する支援」「自閉症（アスペルガー症候群・高機能自閉症）の子どもに対する支援」の分科会で出雲市から2つの発表があります。

### 島根県特別支援教育振興大会50回記念大会

期 日 平成24年10月30日(火)  
 会 場 島根県民会館

\* 「障害」の表記は、各団体等の表記に従いました。

第2回広域特別支援連携協議会の協議内容をまとめました。

【 】内は、具体的な意見

## 自立と社会参加

信頼感

特別な支援を必要とする子どもたち

安心感

周囲の子どもたち

保護者

地域の人々

### 情報の確実な引き継ぎによる支援の継続

- 【保護者が支援ファイルを用いて高校へ引き継ぐ例も増えている。】
- 【高校から中学校に出向いて引き継ぎを行うことも増えている。】

### 特別支援教育に係る情報提供

- 【特別支援教育に係るリーフレットは、保護者会で説明してから手渡し、印刷して繰り返し配付するなど保護者の目にとまるような工夫が必要だ。校内研修会でも活用できる。】
- 【積極的な情報発信を校長便りで行おうと申し合わせた町もある。】
- 【地域への理解啓発には、市町の広報誌も活用するといいい。】

### 障がい特性の理解

- 【二次障がい起きないように周囲の理解を図る必要がある。】

### 教職員の資質向上

#### 通常の学級の担任等の資質向上

- 【コーディネーターは定期的に交代することにより、全員の資質向上を図っている。】
- 【全職員が観察メモを活用し、生徒の実態把握と情報の共有化に努めている。】

#### 特別支援学級担任の資質向上

- 【特別支援学級担任のもつノウハウを通常学級の先生方に伝えて欲しい。】
- 【特別支援学級の理解・啓発をもっとすすめる必要がある。】
- 【特別支援学級が年々増加し、新任担当者も増えている。担任の資質向上が必要だ。】

## 学校発の理解・啓発をすすめよう

平成23年度は、島根県立出雲養護学校と雲南市立木次中学校を指定して実施しました。

### 特別支援学校と中学校特別支援学級の連携推進

#### ■ねらい

- 特別支援学校のセンター的機能を活用し、推進校に継続的支援をすることで、当該特別支援学級担任の指導力向上を図るとともに、特別支援学校高等部との円滑な接続を図る。
- 推進校と周辺の小・中学校との連携をとおして、周辺校の特別支援学級担任の指導力向上を図る。
- 地域における特別支援教育推進の拠点校としての育成を図る。

#### ■取組 年4回の学校訪問指導

- 生徒の実態把握、担任の相談、個別の教育支援計画のアドバイス等
- 夏期研修会；講義「高等部進学に向けて大切にしたいこと」、個別の教育支援計画見直し 等
- 授業研究会
- 評価会議（成果と課題）

#### ■成果と課題

- ☆ 「特別支援学級」での教育や実態把握の仕方について理解が深まった。
- ☆ 特別支援学級の生徒理解が進み、「交流及び共同学習」における指導のヒントがえられた。
- ☆ 授業において「ねらいの明確化」の重要性が再認識できた。
- ☆ 中学校特別支援学級で育てるべき力が明確になった。
- ☆ 中学校のニーズが把握できた。 等
- ★ 地域の拠点校となるためには、通常学級担任の理解・啓発をさらに進める必要がある。 等

【ぜひ、継続指定をしてほしい。】

### 学校発の理解・啓発

【子どもとうまくいかないことで自分の指導が悪い、力量がないととらえて心を病んでいる教員や支援員も多い。その不安感は子どもに伝わる。悩んでいる教員や支援員を支える仕組みが必要だ。】

### 研修の重要性

- ◆ 県の研修
  - ・教育センターの研修等

各市町では、対象を明確にしたきめ細かい研修が実施されています。

- ◆ 市町の研修
  - ・対象別研修（コーディネーター、支援員・介助員等）
    - 【未就学児を担当する保育士や幼稚園教諭の研修機会を増やす必要がある。】
  - ・教育研究部会における研修
    - 【授業研究会を重視している。】
    - 【療育機関の視察、教材教具作りなど、研修内容を工夫した。】

- ◆ 自己研修
  - ・校内研修（授業研究、ケース会議等）
    - 【職員会議に20分程度のミニ研修を頻繁に取り入れた。その結果、学級経営や授業、声かけ等に教師の変容が見られた。すると、保護者から担任への相談が増えてきた。】